

2017/1/13

柏の景気情報（平成28年12月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年12月分）

○ 調査期間 : 平成28年12月23日 ~ 平成29年1月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	75	48.1%
建設	44	18	40.9%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	24	55.8%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年12月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや改善も、先行き不透明感を懸念する声多く、慎重な見方が続く▶

○12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同▲25.0)、卸小売業▲33.3(同▲41.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲16.6(同▲14.2)である。

【建設業】からは、「住宅ストック循環支援事業の補助金を上手く活用した提案を行っていきたい。」(一般土木建築工事業)、「受注工事はあるものの作業員・従業員が足りない。受注単価が厳しいため、簡単に人手を増やす事も難しい。また、高齢化等の事由により退職する社員や外注も増えており、余計に人手不足に拍車をかけている。経費面だけでなく作業、事務処理のやり方を考え直し、人手不足を解消できる方法を模索中である。」(その他の職別工事業)、「11月に引き続き12月も量を新しくして新年を迎えたいという顧客が多かった。年明けはひと段落する見込みだが、アパートの畳表替など年内の受注が入っているため、一つ一つの仕事を大切にに取り組んでいきたい。」(内装工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「経営の土台となる部分の改善を優先して考えることで、現況の会社をいかにして維持していくかを重視している。」(印刷業)、「売上・収益ともに前月と横ばい。」(その他の機械・同部品製造)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「ボーナス期の気温上昇もあり、衣料品全般、寝具類が売上低迷となり、月末のバーゲンを向かえるにあたって大幅な値下げを行い、利幅が大きく減少。クリスマスケーキは前年並みに売上を作るも、おせち料理については7掛けと厳しい状況となった。お歳暮ギフトは前年の9掛け程度となり、ギフトはネット需要が高まる中、リアル店舗は厳しい環境となっている。」(その他の各種商品小売業)、「個々の商店会イベントによる集客では限界があるため、「柏商業祭」のようなイベントを春季にも開催してはどうか。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「年末年始は日並びが悪く、前年より売上が減少した。また、12月の宴会単価を上昇させたが、客数は平月と大きく変わらず、全体の売上は上がらなかった。」(酒場・ビヤホール)、「単発の年度末案件を消化する一方で、来年度の計画の見直しに着手している。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎受注減少

各業種より、「見積もり等の動きがあるが低調。」(電気工事業)、「スポットの受注により売上を確保している状況で、リピート受注は減少傾向。」(その他の金属製品製造業)、「得意先の棚卸しの時期により、今月の納入は少なめとなった。」(電子部品・デバイス製造業)、「クリスマス商戦は予約が減り苦戦した。連休の影響もあったかもしれない。」(菓子・パン小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「取引相場、為替(円安)の影響で原材料仕入価格は大幅に高騰した。衣料関係の製品受注が順調。」(特殊産業用機械)、「SUS材料が品薄で、値上げ傾向にあるため、収益への影響に懸念。」(その他の機械・同部品製造)、「年末の青果物の状況は、お節料理や鍋物需要が活発に動いている。しかし、野菜の品目では日照不足による生育遅れがあり、入荷が減少傾向にある。果実も入荷は前年並みかやや少ない事から高値状況である。今後も迅速な取引先の対応をもって新鮮野菜、果実を提供していきたい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎客単価減少

各業種より、「今年オープン的大型ホームセンターや大型小売店の影響が深刻で、売上に大きく影響している。午前中の客足が遠のき、夕方に瞬間的に客足が集中するが、客単価は減少傾向。専業主婦が減っているのも午前中の客足が少ない要因か。また、暖冬気味になり、冬物の動きが止まるものの、新年度の受注が動き出したため、こちらに期待したい。」(その他の飲食料品小売業)、「個人旅行は、年末年始はカレンダーの日並びが悪いこともあり、「安・近・短」の利用が多く、単価が減少傾向にある。消費者の景気先行き不安が影響しているものと思われる。法人需要は、次年度案件が顕在化している。インバウンド客は日本人よりも早くホテル、航空機を手配するのに反して、日本人の手配は間際化が進んでいる。航空機やホテルの手配でインバウンドに出遅れないよう、早期手配が肝要。」(旅行業)、「金額の安い戸建て、マンション、土地の引き合いが増えている。低金利を利用して賃貸から所有へシフトしている印象。法人からの問い合わせも増えてきている。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
見通し	▲18.6	▲16.6	▲22.2	▲25.0	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小した。

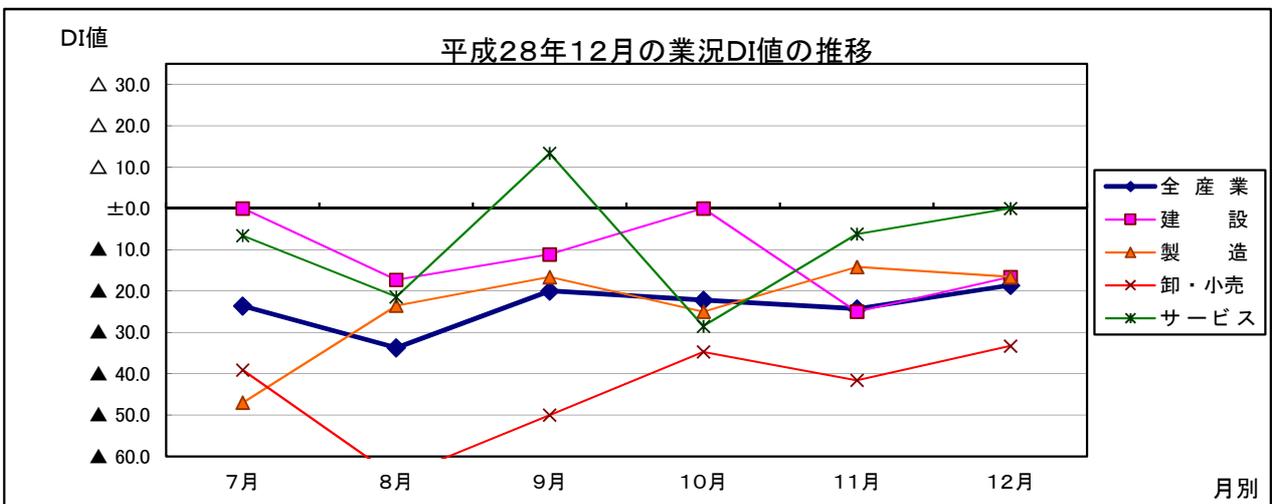
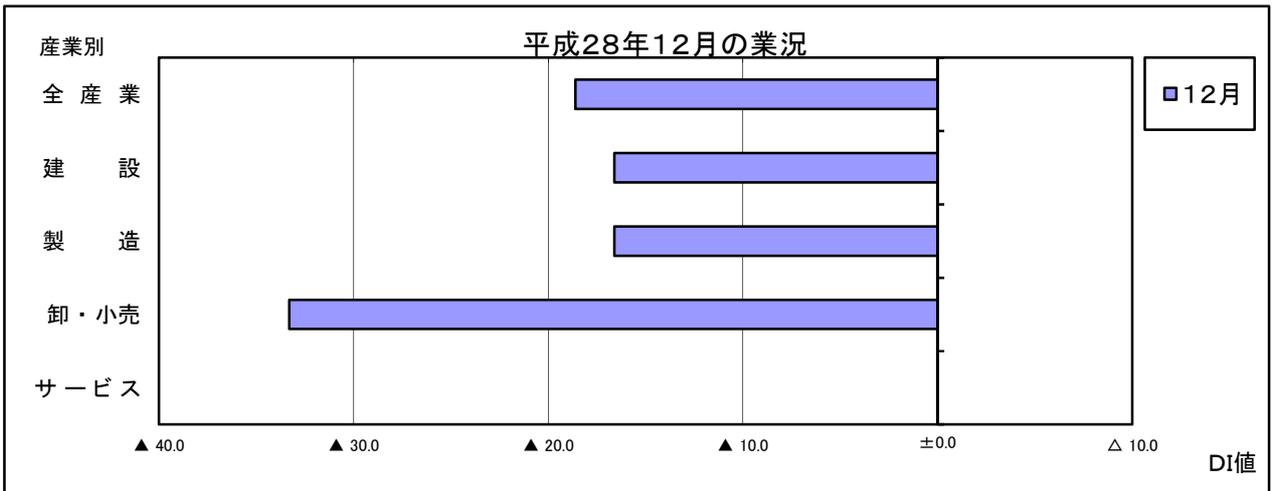
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同▲25.0)、卸小売業▲33.3(同▲41.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲16.6(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.6(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25.0(同▲37.5)、サービス業▲6.6(同▲12.5)、である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲7.1)、建設業▲16.6(同▲15.0)、である。

平成28年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.6	▲33.7	▲20.0	▲22.2	▲24.3	▲18.6	▲18.6(▲20.2)
建設	±0.0	▲17.3	▲11.1	±0.0	▲25.0	▲16.6	▲16.6(▲15.0)
製造	▲47.0	▲23.5	▲16.6	▲25.0	▲14.2	▲16.6	▲22.2(▲7.1)
卸・小売	▲39.1	▲65.2	▲50.0	▲34.7	▲41.6	▲33.3	▲25.0(▲37.5)
サービス	▲6.6	▲21.4	△13.3	▲28.5	▲6.2	±0.0	▲6.6(▲12.5)



【平成28年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.0(同▲16.2)であり、マイナス幅が8.2ポイント縮小した。

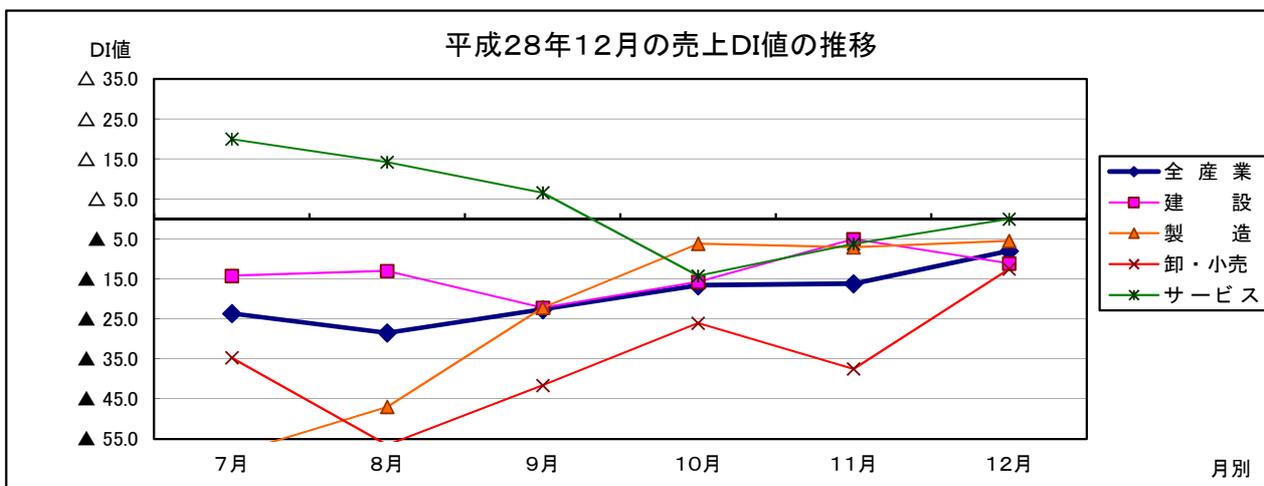
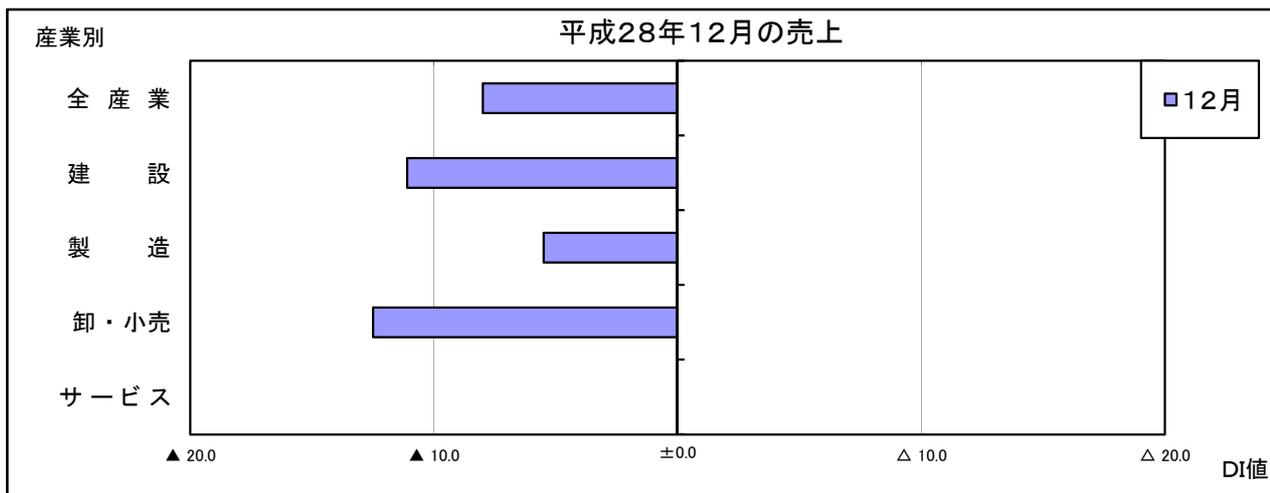
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲12.5(同▲37.5)、製造業▲5.5(同▲7.1)、であり、特にサービス業ではマイナス幅が25.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲11.1(同▲5.0)、である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.6(前月水準▲8.1)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△20.0(同△6.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲21.4)である。変わらない見通しの業種は、卸小売業▲20.8(同▲20.8)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲11.1(同△5.0)である。

平成28年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.6	▲28.5	▲22.6	▲16.6	▲16.2	▲8.0	▲6.6(▲8.1)
建設	▲14.2	▲13.0	▲22.2	▲15.7	▲5.0	▲11.1	▲11.1(△5.0)
製造	▲58.8	▲47.0	▲22.2	▲6.2	▲7.1	▲5.5	▲5.5(▲21.4)
卸・小売	▲34.7	▲56.5	▲41.6	▲26.0	▲37.5	▲12.5	▲20.8(▲20.8)
サービス	△20.0	△14.2	△6.6	▲14.2	▲6.2	±0.0	△20.0(△6.2)



【平成28年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲27.0)となり、マイナス幅が8.4ポイント縮小した。

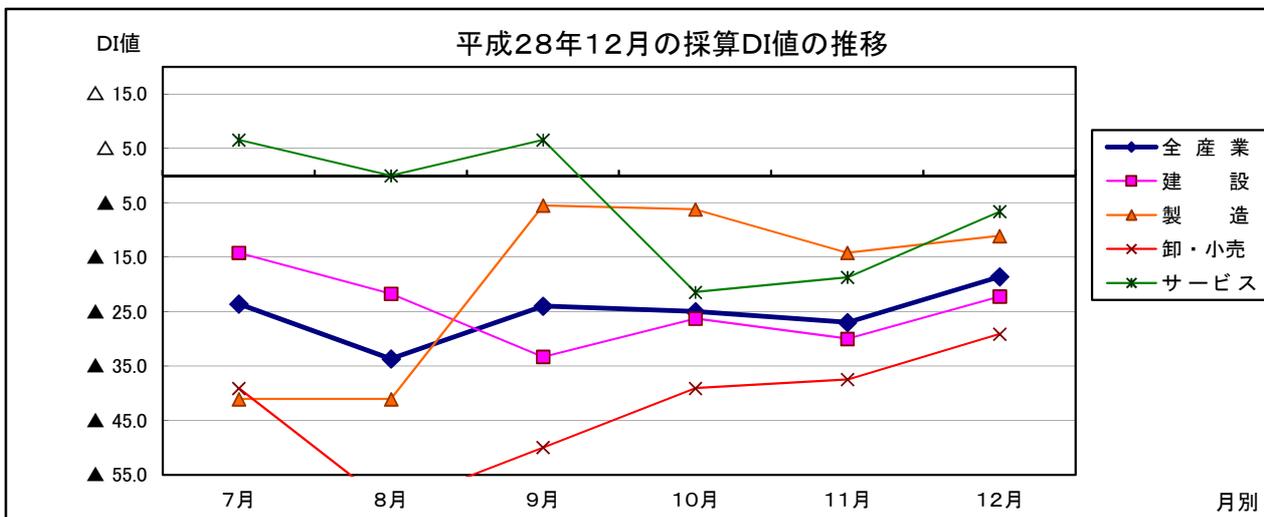
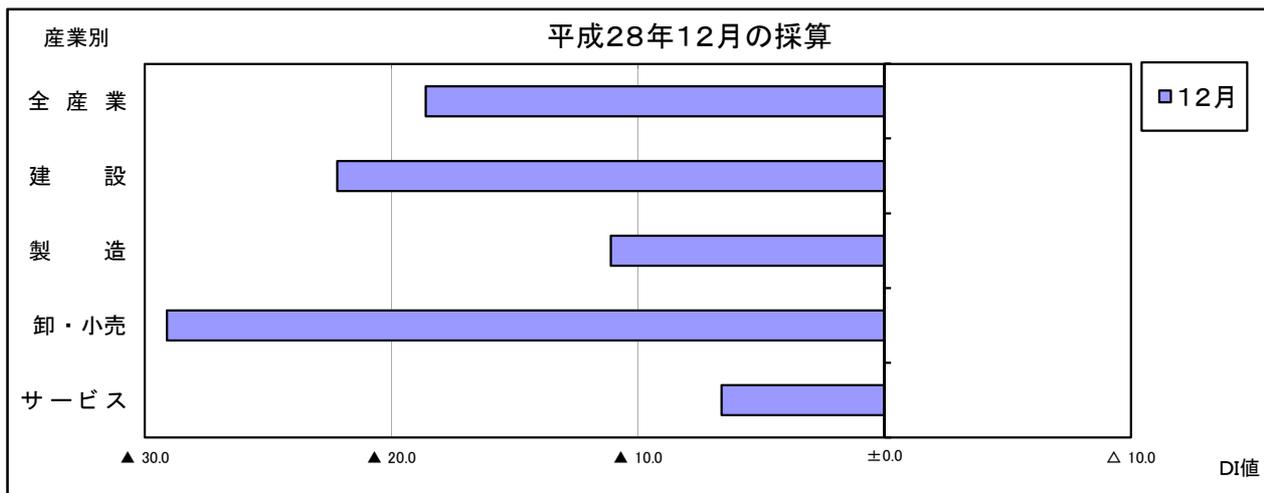
業種別では、全ての業種でマイナス幅が縮小し、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲18.7)、卸小売業▲29.1(同▲37.5)、建設業▲22.2(同▲30.0)、製造業▲11.1(同▲14.2)、である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.3(前月水準▲16.2)であり、マイナス幅が2.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.5(同▲28.5)であり、マイナス幅が23.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲25.0)、建設業▲11.1(同▲10.0)である。

平成28年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲23.6	▲33.7	▲24.0	▲25.0	▲27.0	▲18.6	▲13.3(▲16.2)
建設	▲14.2	▲21.7	▲33.3	▲26.3	▲30.0	▲22.2	▲11.1(▲10.0)
製造	▲41.1	▲41.1	▲5.5	▲6.2	▲14.2	▲11.1	▲5.5(▲28.5)
卸・小売	▲39.1	▲60.8	▲50.0	▲39.1	▲37.5	▲29.1	▲33.3(▲25.0)
サービス	△6.6	±0.0	△6.6	▲21.4	▲18.7	▲6.6	△6.6(±0.0)



【平成28年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.0(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が6.4ポイント拡大した。

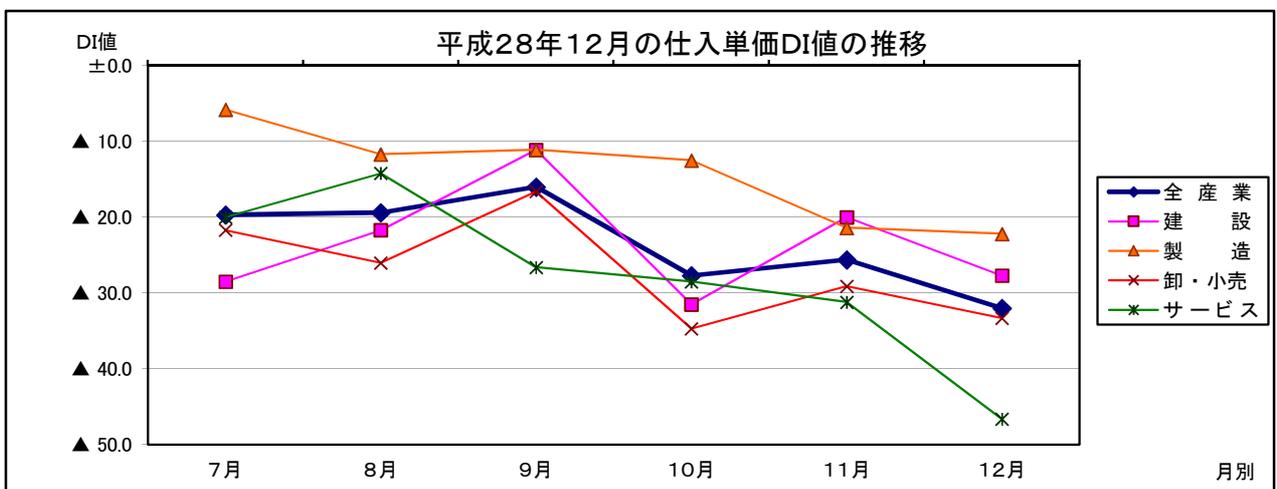
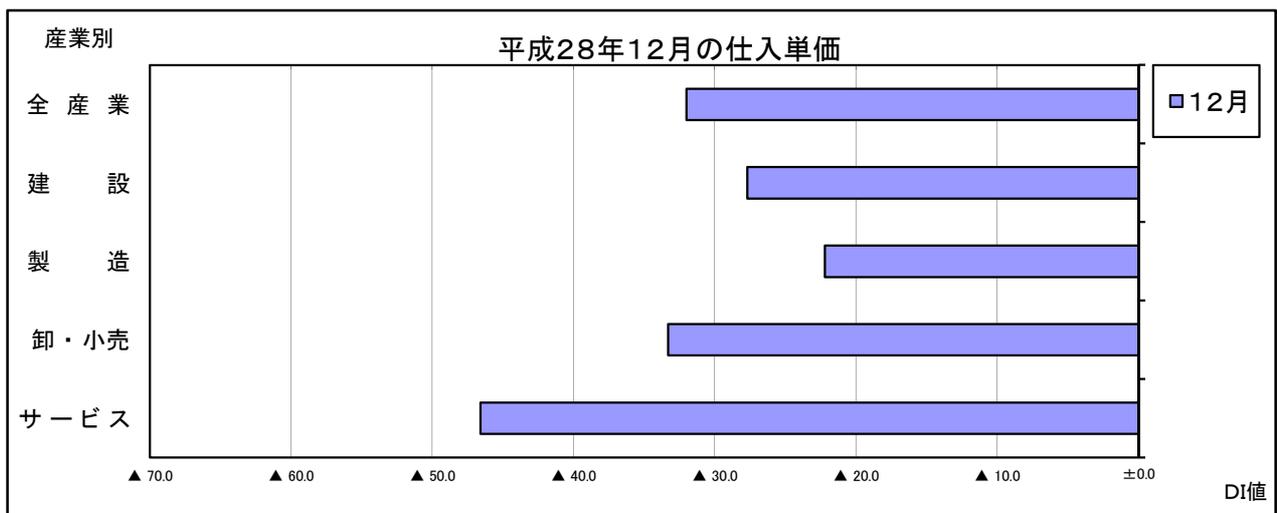
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が拡大し、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲31.2)、建設業▲27.7(同▲20.0)、卸小売業▲33.3(同▲29.1)、製造業▲22.2(同▲21.4)、である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.3(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が1.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲20.0(同▲31.2)である。変わらない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲37.5(同▲25.0)、建設業▲22.2(同▲20.0)である。

平成28年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲19.7	▲19.4	▲16.0	▲27.7	▲25.6	▲32.0	▲21.3(▲20.2)
建設	▲28.5	▲21.7	▲11.1	▲31.5	▲20.0	▲27.7	▲22.2(▲20.0)
製造	▲5.8	▲11.7	▲11.1	▲12.5	▲21.4	▲22.2	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲21.7	▲26.0	▲16.6	▲34.7	▲29.1	▲33.3	▲37.5(▲25.0)
サービス	▲20.0	▲14.2	▲26.6	▲28.5	▲31.2	▲46.6	▲20.0(▲31.2)



【平成28年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△20.0(前月水準△9.4)となり、プラス幅が10.6ポイント拡大した。

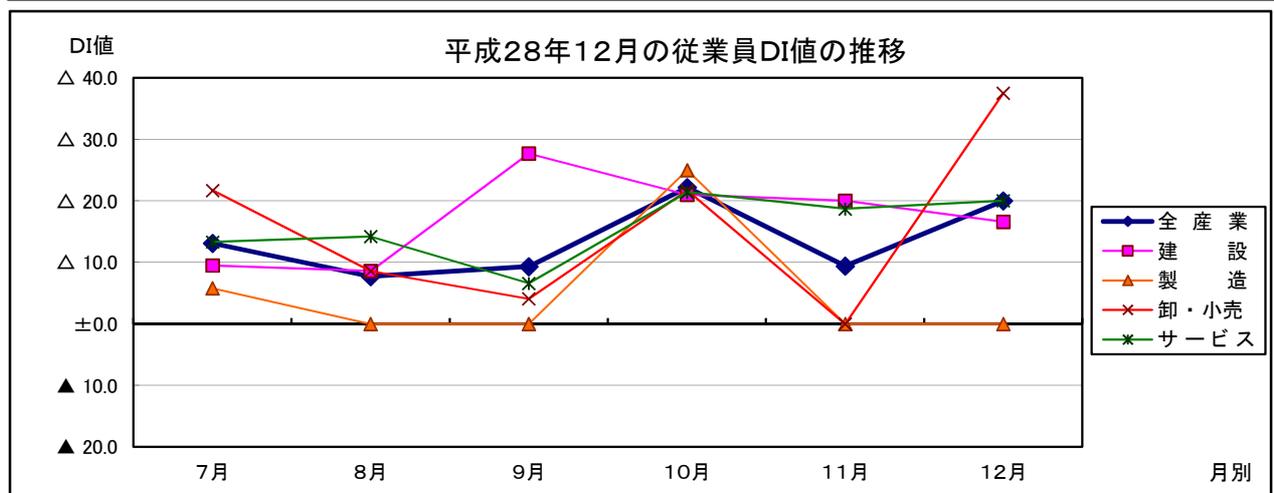
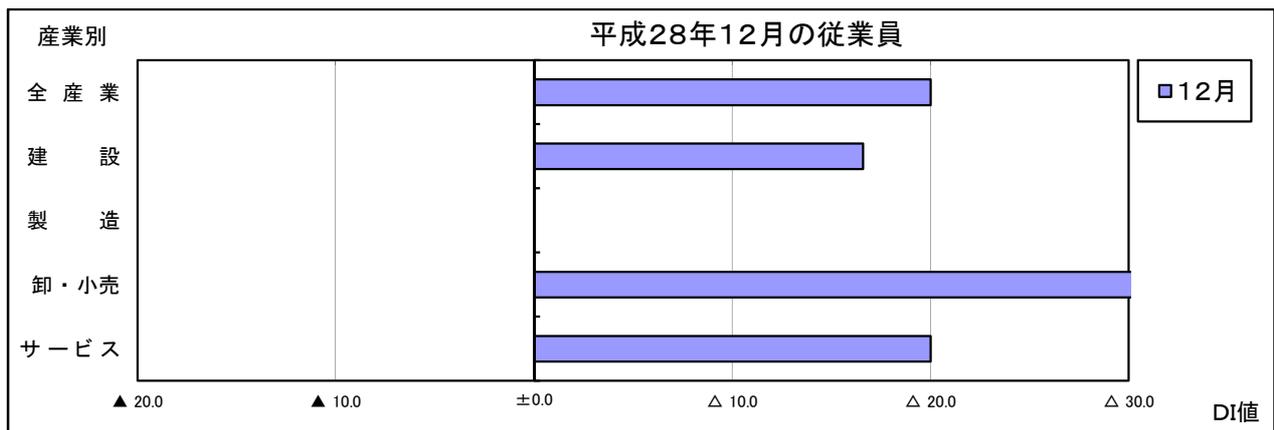
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△37.5(同±0.0)、サービス業△20.0(同△18.7)、であり、特に卸小売業ではプラス幅が37.5ポイントと大幅に拡大した。変わらない業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業△16.6(同△20.0)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.0(前月水準△12.1)であり、プラス幅が7.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△29.1(同△4.1)、サービス業△20.0(同△18.7)、建設業△18.7(同△20.0)であり、特に卸小売業ではプラス幅が25.0ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.5(同△7.1)である。

平成28年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△13.1	△7.7	△9.3	△22.2	△9.4	△20.0	△20.0(△12.1)
建設	△9.5	△8.6	△27.7	△21.0	△20.0	△16.6	△22.2(△20.0)
製造	△5.8	±0.0	±0.0	△25.0	±0.0	±0.0	△5.5(△7.1)
卸・小売	△21.7	△8.6	△4.1	△21.7	±0.0	△37.5	△29.1(△4.1)
サービス	△13.3	△14.2	△6.6	△21.4	△18.7	△20.0	△20.0(△18.7)



【平成28年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.6(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が8.2ポイント縮小した。

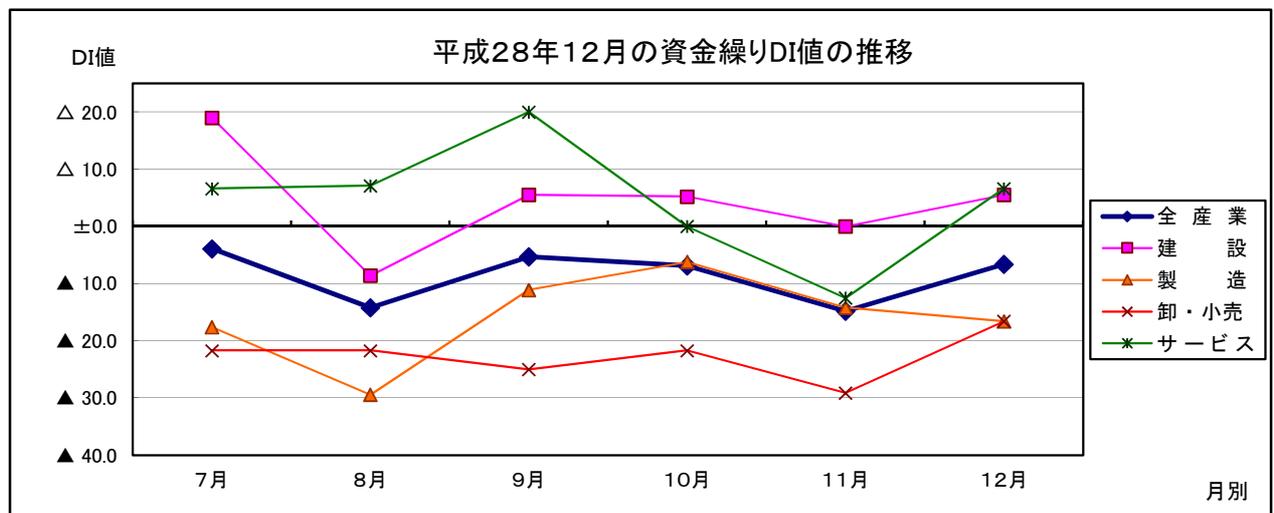
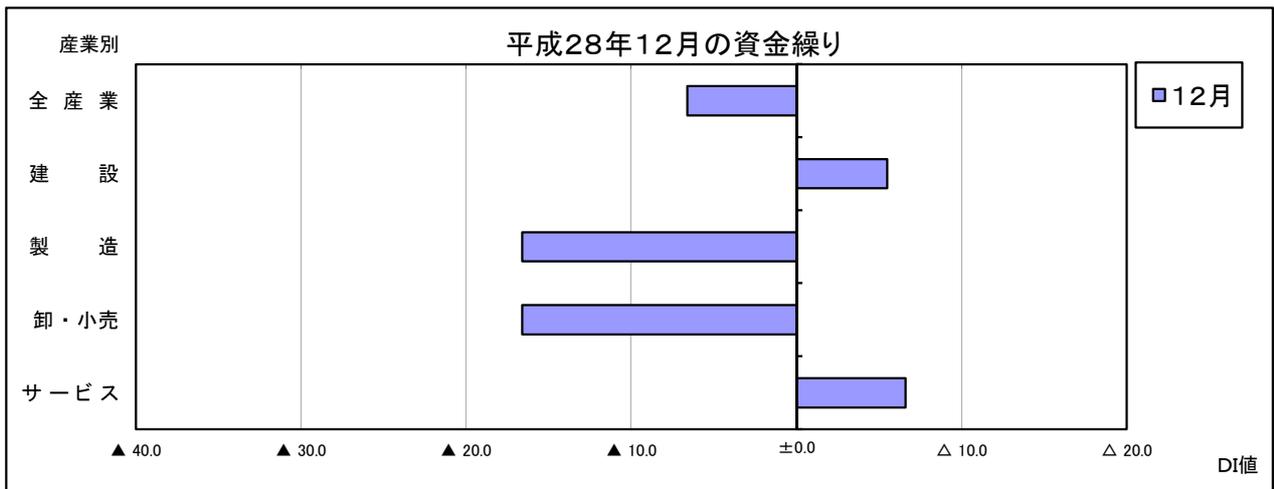
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△5.5(同±0.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲12.5)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲16.6(同▲29.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲16.6(同▲29.1)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.0(前月水準▲12.1)となり、マイナス幅が4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△6.6(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲11.1(同▲21.4)、卸小売業▲16.6(同▲25.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲5.5(同±0.0)である。

平成28年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲3.9	▲14.2	▲5.3	▲6.9	▲14.8	▲6.6	▲8.0(▲12.1)
建設	△19.0	▲8.6	△5.5	△5.2	±0.0	△5.5	▲5.5(±0.0)
製造	▲17.6	▲29.4	▲11.1	▲6.2	▲14.2	▲16.6	▲11.1(▲21.4)
卸・小売	▲21.7	▲21.7	▲25.0	▲21.7	▲29.1	▲16.6	▲16.6(▲25.0)
サービス	△6.6	△7.1	△20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	△6.6(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.0	▲ 6.6	▲ 18.6	▲ 13.3	▲ 32.0	▲ 21.3	△ 20.0	△ 20.0
建設	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 27.7	▲ 22.2	△ 16.6	△ 22.2
製造	▲ 5.5	▲ 5.5	▲ 11.1	▲ 5.5	▲ 22.2	±0.0	±0.0	△ 5.5
卸・小売	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	△ 37.5	△ 29.1
サービス	±0.0	△ 20.0	▲ 6.6	△ 6.6	▲ 46.6	▲ 20.0	△ 20.0	△ 20.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.6	▲ 18.6	▲ 6.6	▲ 8.0
建設	▲ 16.6	▲ 16.6	△ 5.5	▲ 5.5
製造	▲ 16.6	▲ 22.2	▲ 16.6	▲ 11.1
卸・小売	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 16.6
サービス	±0.0	▲ 6.6	△ 6.6	△ 6.6

【平成28年12月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	住宅ストック循環支援事業の補助金を上手く活用した提案を行っていききたい。	補助金活用	一般土木建築工事業
	見積もり等の動きがあるが低調。	受注減少	電気工事業
	受注工事はあるものの作業員・従業員が足りない。受注単価が厳しいため、簡単に人手を増やす事も難しい。また、高齢化等の事由により退職する社員や外注も増えており、余計に人手不足に拍車をかけている。経費面だけでなく作業、事務処理のやり方を考え直し、人手不足を解消できる方法を模索中である。	人手不足 高齢化 業務改善	その他の職別工事業
	11月に引き続き12月も畳を新しくして新年を迎えたいという顧客が多かった。年明けはひと段落する見込みだが、アパートの畳表替など年内の受注が入っているため、一つ一つの仕事を大切にに取り組んでいきたい。	受注増加	内装工事業
製造業	取引相場、為替(円安)の影響で原材料仕入価格は大幅に高騰した。衣料関係の製品受注が順調。	円安 仕入価格高騰 利幅減少	特殊産業用機械
	スポットの受注により売上を確保している状況で、リピート受注は減少傾向。	受注減少	その他の金属製品製造業
	経営の土台となる部分の改善を優先して考えることで、現況の会社をいかにして維持していくかを重視している。	業務改善	印刷業
	得意先の棚卸しの時期により、今月の納入は少なめとなった。	受注減少	電子部品・デバイス製造業
	売上・収益ともに前月と横ばい。SUS材料が品薄で、値上げ傾向にあるため、収益への影響に懸念。	仕入価格高騰	その他の機械・同部品製造業
卸小売	ボーナス期の気温上昇もあり、衣料品全般、寝具類が売上低迷となり、月末のバーゲンを向かえるにあたって大幅な値下げを行い、利幅が大きく減少。クリスマスケーキは前年並みに売上を作るも、おせち料理については7掛けと厳しい状況となった。お歳暮ギフトは前年の9掛け程度となり、ギフトはネット需要が高まる中、リアル店舗は厳しい環境となっている。	売上減少(衣料品等) 利幅減少 天候不順(暖冬) クリスマス商戦	その他の各種商品小売業
	個々の商店会イベントによる集客では限界があるため、「柏商業祭」のようなイベントを春季にも開催してはどうか。	イベント開催	その他の各種商品小売業
	クリスマス商戦は予約が減り苦戦した。連休の影響もあったかもしれない。	クリスマス商戦 受注減少	菓子・パン小売業
	年末の青果物の状況は、お節料理や鍋物需要が活発に動いている。しかし、野菜の品目では日照不足による生育遅れがあり、入荷が減少傾向にある。果実も入荷は前年並みかやや少ない事から高値状況である。今後も迅速な取引先の対応をもって新鮮野菜、果実を提供していきたい。	仕入価格高騰	食料・飲料卸売業
サービス業	今年オープン的大型ホームセンターや大型小売店の影響が深刻で、売上に大きく影響している。午前中の客足が遠のき、夕方に瞬間的に客足が集中するが、客単価は減少傾向。専業主婦が減っているのも午前中の客足が少ない要因か。また、暖冬気味になり、冬物の動きが止まるものの、新年度の受注が動き出したため、こちらに期待したい。	売上減少 客単価減少 天候不順(暖冬) 競争激化	その他の飲食料品小売業
	年末年始は日並びが悪く、前年より売上が減少した。また、12月の宴会単価を上昇させたが、客数は平月と大きく変わらず、全体の売上は上がらなかった。	売上減少	酒場・ビヤホール
	個人旅行は、年末年始はカレンダーの日並びが悪いこともあり、「安・近・短」の利用が多く、単価が減少傾向にある。消費者の景気先行き不安が影響しているものと思われる。法人需要は、次年度案件が顕在化している。インバウンド客は日本人よりも早くホテル、航空機を手配するのに反して、日本人の手配は間際化が進んでいる。航空機やホテルの手配でインバウンドに出遅れないよう、早期手配が肝要。	客単価減少 インバウンド	旅行業
	金額の安い戸建て、マンション、土地の引き合いが増えている。低金利を利用して賃貸から所有へシフトしている印象。法人からの問い合わせも増えてきている。	受注増加 客単価減少 低金利	不動産管理業
	単発の年度末案件を消化する一方で、来年度の計画の見直しに着手している。	業務改善	ソフトウェア業

◎受注減少

各業種より、「見積もり等の動きがあるが低調。」(電気工事業)、「スポットの受注により売上を確保している状況で、リピート受注は減少傾向。」(その他の金属製品製造業)、「得意先の棚卸しの時期により、今月の納入は少なめとなった。」(電子部品・デバイス製造業)、「クリスマス商戦は予約が減り苦戦した。連休の影響もあったかもしれない。」(菓子・パン小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「取引相場、為替(円安)の影響で原材料仕入価格は大幅に高騰した。衣料関係の製品受注が順調。」(特殊産業用機械)、「SUS材料が品薄で、値上げ傾向にあるため、収益への影響に懸念。」(その他の機械・同部品製造)、「年末の青果物の状況は、お節料理や鍋物需要が活発に動いている。しかし、野菜の品目では日照不足による生育遅れがあり、入荷が減少傾向にある。果実も入荷は前年並みかやや少ない事から高値状況である。今後も迅速な取引先の対応をもって新鮮野菜、果実を提供していきたい。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎客単価減少

各業種より、「今年オープンの大型ホームセンターや大型小売店の影響が深刻で、売上に大きく影響している。午前中の客足が遠のき、夕方に瞬間的に客足が集中するが、客単価は減少傾向。専業主婦が減っているのも午前中の客足が少ない要因か。また、暖冬気味になり、冬物の動きが止まるものの、新年度の受注が動き出したため、こちらに期待したい。」(その他の飲食料品小売業)、「個人旅行は、年末年始はカレンダーの日並びが悪いこともあり、「安・近・短」の利用が多く、単価が減少傾向にある。消費者の景気先行き不安が影響しているものと思われる。法人需要は、次年度案件が顕在化している。インバウンド客は日本人よりも早くホテル、航空機を手配するのに反して、日本人の手配は間際化が進んでいる。航空機やホテルの手配でインバウンドに出遅れないよう、早期手配が肝要。」(旅行業)、「金額の安い戸建て、マンション、土地の引き合いが増えている。低金利を利用して賃貸から所有へシフトしている印象。法人からの問い合わせも増えてきている。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

平成28年12月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が3.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.0に対し、「CCI-LOBO」が▲16.0で柏の方がマイナス幅が8.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業とサービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.6に対し、「CCI-LOBO」が▲19.1で柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.0に対し、「CCI-LOBO」が▲28.0で柏の方がマイナス幅が4.0ポイント大きい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△20.0に対し、「CCI-LOBO」が△18.1で柏の方がプラス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.6に対し、「CCI-LOBO」が▲10.6で柏の方がマイナス幅が4.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業とサービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

平成28年12月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.6	 ▲ 16.6	 ▲ 16.6	 ▲ 33.3	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 21.7	 ▲ 12.7	 ▲ 19.6	 ▲ 38.2	 ▲ 14.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.0	 ▲ 11.1	 ▲ 5.5	 ▲ 12.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.0	 ▲ 8.5	 ▲ 17.3	 ▲ 35.7	 ▲ 8.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.6	 ▲ 22.2	 ▲ 11.1	 ▲ 29.1	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 19.1	 ▲ 15.3	 ▲ 16.8	 ▲ 35.0	 ▲ 13.5

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.0	 ▲ 27.7	 ▲ 22.2	 ▲ 33.3	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 28.0	 ▲ 22.4	 ▲ 19.5	 ▲ 29.2	 ▲ 38.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 20.0	 △ 16.6	 ±0.0	 △ 37.5	 △ 20.0
CCI-LOBO	 △ 18.1	 △ 20.7	 △ 8.1	 △ 24.0	 △ 25.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.6	 △ 5.5	 ▲ 16.6	 ▲ 16.6	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 10.6	 ▲ 5.1	 ▲ 12.1	 ▲ 23.5	 ▲ 5.3

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年12月23日～平成29年1月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数75件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
見通し	▲18.6	▲16.6	▲22.2	▲25.0	▲6.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の業況

業況D Iはやや改善も、先行き不透明感を懸念する声も多く、慎重な見方が続く

12月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.6(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が5.7ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲16.6(同▲25.0)、卸小売業▲33.3(同▲41.6)である。マイナ

ス幅が拡大した業種は、製造業▲16.6(同▲14.2)である。

に前月と横ばい。」(その他の機械・同部品製造)などのコメントが寄せられた。

【建設業】からは、「住宅ストック循環支援事業の補助金を上手く活用した提案を行っていききたい。」(一般土木建築工事業、「受注工事

【卸小売業】からは、「ボーナス期の気温上昇もあり、衣料品全般、寝具類が売上低迷となり、月末のバーゲンを向かえるにあたって大幅な値下げを行い、利幅が大きく減少。クリスマスケーキは前年並みに売上を作るも、お節料理については7掛けと厳しい状況となった。お歳暮ギフトは前年の9掛け程度となり、ギフトはネット需要が高まる中、リアル店舗は厳しい環境となっている。」(その他の各種商品小売業、「個々の商店会イベントによる集客では限界があるため、「柏商祭」のようなイベントを春季にも開催してはどうか。」(その他の各種商品小売業、などのコメントが寄せられた。

12月の景気キーワード ◎受注減少

各業種より、「見積もり等の動きがあるが低調。」(電気工事業)、「スポットの受注により売上を確保している状況で、リピート受注は減少傾向。」(その他の金属製品製造業)、「得意先の棚卸しの時期により、今月の納入は少なめとなった。」(電子部品・デバイス製造業、「クリスマス商戦は予約が減り苦戦した。連休の影響もあつたかもしれない。」(菓子・パン小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎客単価減少

各業種より、「今年オープン的大型ホームセンターや大型小売店の影響が深刻で、売上に大きく影響している。午前中の客足が遠のき、夕方に瞬間的に客足が集中するが、客単価は減少傾向。また、暖冬気味になり、冬物の動きが止まるものの、新年度の受注が動き出したため、こちらに期待したい。」(その他の飲食料品小売業、「個人旅行は、「安・近・短」の利用が多く、単価が減少傾向にある。インバウンド客は日本人よりも早くホテル、航空機を手配するの反して、日本人の手配は間際化が進んでいる。」(旅行業、「金額の安い戸建、マンション、土地の引き合いが増えている。低金利を利用して賃貸から所有へシフトしている印象。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「経営の土台となる部分の改善を優先して考えることで、現況の会社をいかにして維持していくかを重視している。」(印刷業、「売上・収益とも

【サービス業】からは、「年末年始は日並びが悪く、前年より売上が減少した。また、12月の宴会単価を上昇させたが、客数は平月と大きく変わらず、全体の売上は上がらなかった。」(酒場・ビヤホール)、「単発の年度末案件を消化する一方で、来年度の計画の見直しに着手している。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎任人価格高騰
各業種より、「取引相場、為替(円安)の影響で原材料仕入価格は大幅に高騰した。衣料関係の製品受注が順調。」(特殊産業用機械)、「SUS(ステンレス鋼)材料が品薄で、値上げ傾向にあるため、収益への影響に懸念。」(その他の機械・同部品製造)、「年末の青果物の状況は、お節料理や鍋物需要が活発に動いている。しかし、野菜の品目では日照不足による生育遅れがあり、入荷が減少傾向にある。果実も入荷は前年並みかやや少ない事から高値状況である。今後も迅速な取引先の対応をもって新鮮野菜、果実を提供していきたい。」(食料・飲料卸売

◎CII・LOBOとの比較
全産業合計では、「柏の景気」が▲18.6に対し、「CII・LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が3.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成28年12月13日～19日

調査対象：全国の423商工会議所が2977企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、3カ月連続改善。先行きは不透明感強く、横ばい圏内の動き

12月の全産業合計の業況DIは、▲21.7と、前月から+1.2ポイントの改善。冬の観光需要が堅調な宿泊業・飲食業に加え、運送業、ソフトウェア業などが下支えし、サービス業の業況感が広く改善した。また、卸売業から農産物の価格高騰の影響が和らいだとの声や、建設業から住宅など民間工事の堅調な動きを指摘する声が多く聞かれた。他方、消費低迷が続く中、人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇が中小企業のマインドを下押ししており、業況改善の動きは依然として力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲21.5（今月比+0.2ポイント）とほぼ横ばいを見込む。冬の賞与増、株高進行による個人消費の伸びや設備投資の増加、海外経済回復に期待する声聞かれる。他方、消費低迷の長期化、人手不足の影響拡大、次期米国大統領の政策の影響など、先行き不透明感を懸念する声は多く、中小企業

においては慎重な姿勢を崩していない。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、卸売業、サービス業で改善、小売業でほぼ横ばい、その他の2業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間工事は多く、業況は安定している。しかし、人手不足は深刻で、受注できない案件も多い。当社が人材を手当てできても、下請業者がなかなか見つからない」（電気工事業）、「公共工事の発注には一服感が出ているが、民間工事では、住宅などで動きが見られるため、全体の売上は前年に比べ、改善した」（一般工事業）

【製造業】「例年、おせち材料の需要から売上が増加する時期だが、鮭の不漁による供給不足と仕入価格上昇で、売上、採算ともに悪化した」（水産食料品製造業）、「円安の進行は、発注元の大手メーカーの輸出増が期待できる一方、最近の原材料価格や燃料費の上昇を一層拡大させ、収益の圧迫要因にならな

いか心配」（自動車部品製造業）

【卸売業】「住宅着工戸数が順調に伸びていることもあり、建設業からの引き合いが強く、売上は改善した」（建築材料卸売業）、「地元産の農産物が出回り始めたことで、供給量が元に戻り、価格は下がりつつある。高値のため落ち込んでいた消費者の購買意欲が戻れば、売上も回復する見込み」（農産物卸売業）

【サービス業】「忘年会プランの反応は良好なほか、例年より早く積雪があることでスキー客の入りも好調だ」（飲食業）、「年末商戦や初売り関連の出荷が増加し、売上は堅調である。しかし、慢性的なドライバー不足や、燃料費などの上昇により、業況感改善しない」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲24.5	▲22.6	▲20.8	▲27.5	▲37.2	▲16.9
8月	▲24.9	▲17.8	▲20.2	▲33.1	▲38.2	▲18.9
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
11月	▲22.9	▲11.0	▲18.2	▲26.4	▲38.5	▲20.3
12月	▲21.7	▲12.7	▲19.6	▲22.5	▲38.2	▲14.6
見通し	▲21.5	▲6.0	▲20.6	▲24.9	▲34.2	▲19.6